

月刊

インド



Monthly Journal of the Japan-India Association

公益財団法人 日 印 協 会 (日印間の政治・経済・文化交流に貢献して 109 年)



日印国交樹立 60 周年シンポジウム

日印国交 60 周年を祝して ～日印関係の回顧と展望そして提言



〈壇上のパネリスト 左から榎泰邦氏 アフターブ・セット氏 平林博氏 比良竜虎氏〉

於 2012 年 7 月 2 日 経団連会館
写真提供：佐伯健三氏

目次

- 1. 2011 年度決算理事会・評議員会…………… P. 3
- 2. アロック・プラサド駐日インド大使の歓送会に出席して…………… P. 8
- 3. インドニュース(2012 年 5 月)…………… P. 9
- 4. イベント紹介…………… P. 14
- 5. 新刊書紹介…………… P. 17
- 6. 貿易概況…………… P. 18
- 7. 掲示板…………… P. 19

1. 2011 年度決算理事会・評議員会 The Board Meetings of the Directors and Trustees

〈2011 年度 決算理事会〉

1. 開会の日時及び場所

日 時: 2012 年 6 月 11 日(月) 15:00~16:00

場 所: 国際文化会館 セミナーD 室 (東京都港区六本木 5-11-16)

2. 出席者 11 名(理事現在数 19 名) 他にオブザーバー1 名、事務局 2 名出席

3. 議案

(決議事項)

第 1 号議案 「2011 年度事業報告(案)」の承認に関する件

第 2 号議案 「2011 年度決算報告(案)」の承認に関する件

第 3 号議案 「評議員会の招集」の承認に関する件

第 4 号議案 「評議員会に対する評議員候補の推薦」の承認に関する件

(報告事項)

第 5 号議案 「会長、副会長、理事長、常務理事の選任に関する手続き」の件

第 6 号議案 顧問の再任の件について

第 7 号議案 その他



4. 議事の経過

冒頭、平林理事長より、本日の出席者数が当協会定款第 38 条(決議)に規定する「理事総数 19 名の過半数の出席」が確保され、定足数に達したことを報告し、また、森喜朗会長はやむを得ない他用にて、本日の理事会に出席できないので、議長は定款第 39 条(議長)の規定により、理事長が代行する旨報告し、開会を宣言した。

続いて第 1 号議案から第 4 号議案が、審議の結果出席理事の全会一致により原案通り承認された。

第 5 号議案では、理事及び監事、さらに会長兼代表理事、理事兼副会長、理事長兼代表理事、業務執行理事兼常務理事の任期が 18 日開催の評議員会の日に満了となるので、同評議員会で新たに選任される理事の互選で選任されることが報告された。

第 6 号議案については、顧問の任期も同じように満了となるので、18 日開催の評議員会后、理事の互選により新たに選任される会長によって任命される予定であることが報告された。

第 7 号議案については、駐日インド大使の交代に伴う歓送迎会の開催と、シン首相来日時の講演会開催について検討中であることが紹介された。

5. 議事終了

議長が、全ての議案が活発な質疑の結果原案通り承認された旨宣言し、全議事を終了した。

〈2011 年度 決算評議員会〉

1. 開会の日時及び場所

日 時: 2012 年 6 月 18 日(月) 15:00~16:00

場 所: 国際文化会館 別館 1 館 セミナーE 室 (東京都港区六本木 5-11-16)

2. 出席者 6 名(評議員現在数 6 名) 事務局 3 名出席

3. 議案

第 1 号議案 2011 年度事業報告の件 (報告事項)

第 2 号議案 決算関係書類

(貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録)の承認に関する件(承認事項)

第 3 号議案 新たな評議員の選任に関する件(決議事項)

第 4 号議案 理事及び監事の選任に関する件(決議事項)

第 5 号議案 会長、副会長、理事長、常務理事、顧問の選任予定の件(報告事項)

第 6 号議案 その他



4. 議事の経過

評議員6名全員が出席し、当協会定款第21条の規定の定足数に達したことを確認後、定款第20条の規定により、出席評議員の互選により、谷野作太郎評議員が議長に選任され、谷野議長が議事を進めた。

平林理事長からの第1号議案の報告を受け、第2号議案については、全会一致により承認された。

第3号議案については、故山本正評議員を補充する形で、中野良子氏及び渋澤健氏が選任された。

第4号議案では、理事会で報告済みの候補者リストに従って、新たな理事及び監事が選任された。

第5号議案については、第4号議案で新たに選任された理事の互選により会長、副会長、理事長、常務理事等が選任される予定であり、また、顧問については新たな会長によって任命される予定である旨報告された。

議事録署名人については、定款第24条(議事録)により谷野作太郎(議長)のほか、小島秀樹評議員及び佐川雄一評議員が出席評議員の互選により指名された。

5. 議事終了

議長より、全ての議案が適切に審議された旨発言があり、全議事を終了した。

【中野良子(なかの・よしこ)氏 略歴】

公益財団法人オイスカ 会長

1974年 オイスカ・インターナショナル 総裁 現在に至る

1975年 財団法人国際文化交友会 理事長 現在に至る

1983年 財団法人オイスカ産業開発協力団(1995年財団法人オイスカに名称変更)会長 現在に至る

【渋澤健(しぶさわ・けん)氏 略歴】

シブサワ・アンド・カンパニー株式会社 代表取締役 / 公益財団法人日本国際交流センター 理事長

1983年 テキサス大学 BS Chemical Engineering 卒業

1984年 (財)日本国際交流センター入社

1987年 UCLA 大学 MBA 経営大学院卒業後、米系金融機関等を経て、

2001年 シブサワ・アンド・カンパニー株式会社を創業し、代表取締役に就任

2007年 コモンズ株式会社を創業し代表取締役就任

2008年 コモンズ投信へ改名し、会長に就任、現在に至る

【山田隆持(やまだ・りゅうじ)氏 略歴】

1973年 日本電信電話公社入社

2002年 西日本電信電話株式会社 常務取締役 ソリューション営業本部長

2004年 日本電信電話株式会社 代表取締役副社長

2007年 株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ 代表取締役副社長 法人営業本部長

2008年 株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ代表取締役社長

2012年 株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ 取締役相談役(現職)

〈新体制の発足〉

2012年6月18日、公益財団法人日印協会は、2名の新評議員と1名の新理事を迎えて、下記のとおり新たな体制で出発致しました。関係各位の倍旧のご支援とご協力をお願い申し上げます。

公益財団法人日印協会 役員一覧

代表理事・会長		森 喜朗	衆議院議員、元首相
代表理事・理事長	※	平林 博	元駐印・駐仏大使、(公財)日本国際フォーラム副理事長
評議員		小島 秀樹	小島国際法律事務所 代表パートナー
評議員		佐川 雄一	サガフウウイチコンサルタンツ 代表
評議員		佐々木 隆雄	元日印協会専務理事
評議員		谷野 作太郎	元駐印・駐中大使、(公財)日中友好会館会長代行
評議員		野田 英二郎	元駐印大使
評議員		松本 洋	(公財)国際文化会館 理事
評議員		中野 良子	(公財)オイスカ 会長
評議員		洪澤 健	(公財)日本国際交流センター 理事長
理事・副会長		鈴木 修	スズキ株式会社 代表取締役会長兼社長
理事・副会長		大橋 信夫	三井物産株式会社 顧問、日印経済委員会会長
理事・副会長		佐々木 幹夫	三菱商事株式会社 相談役
理事・副会長		張 富士夫	トヨタ自動車株式会社 代表取締役会長
理事・副会長		岡 素之	住友商事株式会社 相談役
理事・副会長		坂根 正弘	株式会社小松製作所 取締役会長
理事・副会長		山田 隆持	株式会社NTTドコモ 取締役相談役
業務執行理事・常務理事	※	原 佑二	元インド三菱商事社長
理事		大内 晴美	大内会計事務所 所長
理事		勝田 友治	元(株)竹中工務店
理事		鹿子木 謙吉	元日印協会常務理事
理事		近藤 正規	国際基督教大学 上級准教授
理事		笹田 勝義	元日印協会事務局長
理事		半田 晴久	世界芸術文化振興協会 会長
理事		比良 竜虎	株式会社シンリョー 相談役
理事		増田 泰三	有限会社シタァール 代表取締役
理事		山田 真美	日印芸術研究所 言語センター長
監事		菊島 輝男	(株)ナカムラ ちば留学センター 留学カウンセラー
監事		高梨 恒弘	高梨恒弘税理士事務所 所長
顧問		伊藤 憲一	(公財)日本国際フォーラム 理事長
顧問		梅葉 芳弘	三菱化学株式会社 取締役常務執行役員
顧問		榎 泰邦	元駐印大使、榎インド総合研究所代表
顧問		小笠原 敏晶	株式会社ニフコ 創業者名誉会長
顧問		小林 俊二	元駐印大使、日本大学大学院 講師
顧問		田原 総一郎	田原総一郎事務所 代表、ジャーナリスト
顧問		長崎 暢子	龍谷大学 現代インド研究センター長
顧問		奈良 毅	東京外国語大学名誉教授
顧問		堀本 武功	京都大学大学院 特任教授
顧問		前田 專學	東京大学名誉教授
顧問		村上 幸彦	株式会社デンソー 常務役員
顧問		三角 佐一郎	元日印協会専務理事
顧問		山田 中正	元駐印大使

(注) ※は常勤、他は非常勤

貸借対照表

2012年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		18,328,925
現金	33,360	
普通預金	3,941,145	
定期預金	13,993,425	
振替口座	360,995	
前払金	230,685	230,685
貯蔵品	243,705	243,705
流動資産計		18,803,315
2 固定資産		
(1) 基本財産		
定期預金	5,000,000	
基本財産合計		5,000,000
(2) その他の固定資産		
什器備品	132,307	
図書	899,000	
立像他	505,671	
事務所敷金	2,197,000	
その他の固定資産合計		3,733,978
固定資産計		8,733,978
資産合計		27,537,293
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	171,107	
預り金	114,300	
流動負債計		285,407
2 固定負債		
固定負債計		0
負債合計		285,407
III 正味財産の部		
1 指定正味財産	0	
2 一般正味財産	27,251,886	
(うち基本財産への充当額)	(5,000,000)	
正味財産合計		27,251,886
負債及び正味財産合計		27,537,293

正味財産増減計算書

2011年4月1日～2012年3月31日まで

(単位:円)

科 目	金 額	備 考
I 一般正味財産増減の部		
1 経常増減の部		
(1) 経常収益		
① 基本財産運用益	1,802	
基本財産受取利息	1,802	
② 受取会費	22,556,750	
特別法人会員受取会費	11,450,000	
一般法人会員受取会費	8,400,000	
個人会員受取会費	2,706,750	
③ 事業収益	1,605,500	
公Ⅱ 文化交流事業開催収益	1,029,000	ブラサド大使歓迎レセプション他
公Ⅲ 講演会等開催収益	576,500	
④ 受取寄付金	4,625,000	
現金による受取寄付金	65,000	
60周年記念事業寄付金	4,550,000	
蔵書他受取寄付金	10,000	* 現金以外の寄付
⑤ 雑収益 (受取利息)	5,365	
経常収益計	28,794,417	
(2) 経常費用		
① 事業費	10,946,860	
公Ⅰ 情報収集調査研究事業	1,101,872	原常務理事他2名訪印 現代インドフォーラム
公Ⅱ 文化交流促進事業	1,706,002	ブラサド大使歓迎レセプション他
公Ⅲ 会報等発行事業	2,936,926	機関紙 年10回発行
公Ⅲ 広報(ホームページ)事業	1,204,585	
公Ⅲ 講演等開催事業	410,370	講師謝金 100周年記念誌 配布含
公Ⅳ 文化行事費用	143,655	ナマステインディア
公Ⅳ 60周年記念事業	3,343,450	写真展 シンポジウム インドにて開催
公Ⅴ 提言事業	100,000	
② 管理費	16,743,013	
役員報酬	4,200,000	
人件費(給料手当等)	6,665,160	
物件費	5,877,853	
会議費	210,259	理事会費関係
旅費交通費	1,018,440	通勤費を含む
通信費	636,738	
什器備品減価償却費	87,203	
消耗品費	59,675	
光熱水料費	308,438	
賃借料	2,768,220	
雑費	788,880	
経常費用計	27,689,873	
当期経常増減額	1,104,544	
2 経常外増減の部		
(1) 経常外収益		
経常外収益計	0	
(2) 経常外費用		
経常外費用計	0	
当期経常外増減額	0	
当期一般正味財産増減額	1,104,544	
一般正味財産期首残高	26,147,342	
一般正味財産期末残高	27,251,886	
II 指定正味財産増減の部		
当期指定正味財産増減額	0	
指定正味財産期首残高	0	
指定正味財産期末残高	0	
III 正味財産期末残高	27,251,886	

※理事会と評議員会の議事録及び関連資料は、事務局にて公開しております。

2. アロック・プラサド駐日インド大使の歡送会に出席して Farewell to H. E. Alok Prasad

公益財団法人日印協会
理事 笹田 勝義

アロック・プラサド(H. E. Mr. Alok Prasad)駐日インド大使が、任期満了による帰任となるので、今後の益々のご活躍を祈念しての歡送会が、6月13日(水)に在日インド大使館にて盛大に開催されました。この歡送会に出席する機会に恵まれたので、お世話になった大使への感謝の気持ちを込めて、歡送会の雰囲気をご報告します。



〈写真1 歡送会風景〉

在日印度商工会議所理事長で、日印協会理事を勤められている比良竜虎氏が、プラサド大使夫妻を会場へ先導され、兎角歡送会という堅苦しい雰囲気の中で、軽妙な語り口での司会で会が始まった。会場となったインド大使館ロビーには溢れるほどの大使ファンと種々お世話になった関係者が参集した(写真1参照)。1年6ヶ月と大使としては短い期間であったので、早い帰任を惜しむ声があちらこちらから聞こえてきた。



〈写真2 プラサド大使ご夫妻〉

筆者は日印協会メンバーとして、また現在インド企業と少しだけ関わっていることもあって、色々な場で大使にお目にかかる機会も多かったので、親しくお話することこそは余り無かったが、目が合えばお互い目礼が出来るほどの間柄ではあった。そんな筆者が受けた大使像は、大使の風貌が、人懐っこい笑顔で、インド国を代表する人物にしては人に威圧感を与えず、深い包容力を感じさせる、親しみ易いお人柄との印象が強い。本来業務は、政治・外交で豊富な経験と見識を持って、インド政府代表として日本政府と対峙されたのであろうが、外交官としては珍しく堅苦しくなく、親しみ易いと感じ入っていた(写真2参照。大使夫人は右から2番目)。

しかし、時として大使館員に向ける鋭い眼光は、さすがに、マンモハン・シン インド首相の右腕と称されたお方だと頷けた。

インドのお国の事情とは言え、在任期間1年6ヶ月の大使としての短いお勤めであった。政治的・外交的な活動については、このような短期間での成果は筆者を含め一般人には分からぬ範疇だとは思いますが、大きな成果を残されたのであろう。

筆者が大使に抱いた最も印象深い活動は、何と言っても、昨年3月11日に突如起きた東日本大震災への、迅速かつ効果的な対応であった。震災直後に、インド本国への救助支援を申し出られ、インド政府の構築していたインド政府災害対応隊(NDRF)がいち早く被災地に派遣されたことだ。日本各地から、そして世界各国からの多くのボランティア、救助隊が現地に入り詳細は報道されていないのかもしれないが、懸命の救助活動が、数限りなく行われたと聞く。NDRF部隊も、報道は少なかったものの素晴らしい救助活動をされたと聞く。後日談ではあるが、救助活動を終え、帰国の運びとなった時に、NDRF部隊員全員に慰労と感謝の催しがあって、筆者も参加した。この席上では、多くの被災地の写真提供と活動状況の報告をしてもらったが、寝食を忘れての懸命の救助を目の当たりにして、改めて感激をし、何も出来なかった自分に恥じ入ると共に、日本人として感謝の念がふつふつと湧いてきたことを、昨日のこのように思い出される。最後に、森喜朗日印協会会長が、隊員に対して『47人の巨象』と表して謝礼を述べられた。正に同感で、

インドに縁ある人間として、心の中で深く感謝をしている。被災された方々のみならず日本人として、このような支援活動は極めて印象が強く、大使のインド国を代表しての活動が強烈に心に残ることであった。

また、平林博日印協会理事長が、大使への感謝を込めて歓送会の乾杯の音頭を取られ、理事長夫人から大使夫人へ花束贈呈が行われた。

理事長からは、大使が短期間にも拘らず、多くの業績を残された旨のお話があったが、感嘆に値する言葉があった。普通の歓送会では業績の賛辞と共にこれからも益々健勝で、いつまでもお元気で、乾杯！と締めくくるのであろうが、理事長は「私は、大使にさよならとは言わないよ。いつでも帰ってきて欲しい」と親愛の念を込めて語られたことだった。この瞬間に大使のお顔には、満面の笑みが溢れていたことは、筆者の目に深く刻まれ、忘れ難い歓送会であったこと、最後に付け加え、ご報告に代えたい。



〈写真3 平林理事長(右)の乾杯の挨拶〉

以上

写真2・3 提供：櫻井秀武氏(協会会員)

3. インドニュース(2012年6月) News from India

I. 内政

6月2日

- シン首相は、カルカッタ大学でのインド科学学会設立100周年祝賀開始式に出席のため、コルカタを訪問(シン首相のコルカタ滞在は約3時間)。

メモ:

ヒンドゥスタン・タイムズ紙は、バナジー州首相が、儀礼に反し、空港到着時にシン首相を出迎えなかったことや、コルカタ市内でシン首相出席の下行われた定礎式に、バナジー州首相が欠席したことから、州財政危機への支援に乗り出さないことへの怒りから、バナジー州首相はシン首相を冷淡に迎えたと報道。他方、タイムズ・オブ・インディア紙は、シン首相訪問前に懸念された緊張は、バナジー州首相がシン首相とカルカッタ大学の行事に並んで登壇・着席し、言葉を交わしたことで解消されたと報じている。

6月3日

- 西ベンガル州内6市議会で選挙が行われ、同州の与党であるトリナムル・ kongress党(TMC)は、2市議会で左翼戦線から過半数を奪回する等、4市議会で過半数を維持。前回の州議会選挙で大敗を喫した左翼戦線は、ハルディア市議会のみで過半数を維持。

6月12日

- インド選挙管理委員会は、大統領選挙の日程を発表(投票:7月19日、開票:7月22日)。パティル大統領の任期は7月24日まで。(注:大統領選挙は、国会議員や州議会議員による間接選挙)。

6月18日

- タイムズ・オブ・インディア紙は、チョーハン・マディアプラデーシュ(MP)州首相が、州の工業・商業相や28人の経済関係者らからなる代表団とともに、MP州への投資促進のため、日本、韓国、シンガポールの訪問に出発した旨報道。

6月22日

- 英字各紙は、コルカタ高等裁判所が、西ベンガル州政府による「シングル土地法」が、違憲であるとの判決を下した旨報道。

メモ:

シングル土地法(昨年6月成立)は、西ベンガル州の前左翼政権が、タタ自動車との間で締結した土地貸借契約を破棄するとともに、土地収用を望まない農民への土地返却を可能にする法律。バナジー・トリナムル・ कांग्रेस党(TMC)党首(当時は野党)は、タタ自動車の小型車「ナノ」の工場建設のために、州政府(当時は左翼政権)が、シングル農家の農民から強制的に土地を収用したとして、激しい抗議活動を展開、最終的にはタタ自動車のシングルからの撤退に成功し、TMCが州民からの支持を集める大きな足がかりとなったという経緯がある。バナジー-TMC党首は、2011年の州議会選挙キャンペーン中に、TMCが政権を獲得すれば、シングルで不当に手放した農民への土地返還を約束しており、今回のコルカタ高裁の判決は、TMC州政権に大きな打撃を与えることになったと見られている。

なお、コルカタ高裁は、シングル土地法が違憲である理由として、インド憲法では、連邦法と州法との間に相違がある場合、連邦法が優先すると定められるとともに、大統領の承認が得られた場合には、州法を優先することができる定められているが、州法であるシングル土地法は、連邦法である土地収用法に反する部分があるにもかかわらず、大統領承認を得ていないことをあげている。

6月26日

- インド大統領府は、パティール大統領が、シン首相の助言に基づき、ムカジー財務大臣とシン中小零細企業大臣の辞任を承認した旨発表。

メモ:

ムカジー財務大臣の辞任後は、シン首相が財務相を兼任。また、シン中小零細企業大臣の職務は、デシュムク科学技術・地球科学大臣が兼務することになった。なお、シン中小零細企業大臣の辞任は、25日に、同大臣の出身州であるヒマーチャル・プラデーシュ(HP)州の特別法廷が、同大臣のHP州首相時代の汚職疑惑に関する裁判手続きを開始すると発表したことを受けて、26日に、シン首相に辞表を提出したことによるもの。

- 英字各紙は、インド警察は、サウジアラビア警察の支援を得て、2008年11月26日のムンバイ同時多発テロ事件の首謀者の1人であるとされるアブ・ジュンダルが、(サウジアラビアを強制退去させられ)ニューデリーに到着したところを逮捕した旨報道。

6月27日

- チェンナイ市内幹線道路高架橋に至るランプウェイにおいて、39人乗りの公営バスが、側壁に衝突し突き破り、約3m下の側道に転落。死者はなかったものの、乗客約30名が負傷。

6月28日

- ムカジー前財務相とサングマ元下院議長が、アグニホトリ選挙管理官に対し、大統領選挙への立候補を届け出。

II. 経済

6月5日

- インド商工省は、2009年8月に発表した貿易政策に関する、2012年度の追加政策を公表。

メモ:

今回商工省が発表した追加政策は、無関税EPCGスキーム(将来における一定の輸出を約束することにより、資本財の輸入関税を免除する制度)の適用を、2013年3月末までとすることや、資本財輸入時に一旦輸入関税を支払った場合でも、一定の輸出を行った後に、遡及的にEPCGスキームを活用し還付を受けられることとすることなどが盛り込まれている。

- インド気象庁は、ケララ州に、今期のモンスーンが到来した旨宣言。7月1日には、デリーを含むほぼ全土がモンスーン期に入る見込み。

メモ:

インドでは、人口の半数以上が農業を営み、約6割の農業が天水依存型。現地紙の報道では、本年は正常なモンスーンと豊作が予想されている由。

6月6日

- 首相府は、2012年から2013年のインフラ整備目標を最終的に決定するため、シン首相が主催して、インフラ整備目標閣僚会議が開催されたと発表。

メモ:

上記会議で定められた主な整備目標は以下のとおり(相当野心的な内容)

- ◆ 港湾: 42 のプロジェクトを対象とし、総額は 1,450 億ルピー。
- ◆ 道路: 新規開発される道路の総延長は 9,500km。昨年度から 18.7%の増加。
- ◆ 民間航空: ゴア州のイタナガール空港の建設を着工。また、3~4 の地域で新しい国際空港が決定。
- ◆ 鉄道: 貨物専用鉄道建設計画(DFC)東回廊のソナガル・ダंकニ間のPPP事業や、ムンバイ高架鉄道が決定される他、ムンバイからアーメダバードへの高速鉄道事業の計画は最終決定される。

6月8日

- ヒンドゥー紙は、インドへの濃縮再処理移転に対し、否定的な発言を行っているロシアのロスアトム(注:ロシアの国営原子力企業)幹部へのインタビュー記事を掲載。

メモ:

ロスアトム幹部の主な発言は以下のとおり。

- ◆ (原子力供給グループ(NSG)がNPT非締約国への濃縮再処理技術移転を厳格化したことを受け)ロシアはNPT締約国であり、濃縮再処理技術を高めようとする国への技術の移転は制限されることになる。
- ◆ クダंकラム 1号基及び 2号基は、地元の反対を含む困難を乗り越えたが、今後の 3号基、4号基建設については何ら決定されていない。
- ◆ 我々は供給者に過ぎず、次の用地の問題はインド政府が解決しなければならない。用地が確保され次第、交渉に臨む用意がある。

6月10日

- インディアン・エクスプレス紙は、インドは、グジャラート州バヴナガル地区に建設される、原発の技術仕様書の作成を完了し、米国に手交した旨報道。

メモ:

上記報道は、情報筋の話として、米国政府は、未解決のインド原子力責任法問題が、技術的交渉に影響を与えないようにすることを決めたと報じている。更に、同記事は、インド原子力庁は、AP-1000型原子炉ウエスティング・ハウス(WH)社の最新の原子炉で、同社がグジャラート州に建設予定のものと同型のもの)に対する、米国規制当局の安全性認可を求めていたが、今般、米国原子力規制委員会が、AP-1000型原子炉を認可したところ、残る未解決の問題は、WH社の過半数の株式を握る東芝の役割であるが、WH社はインド側に対し、インドとの契約において、日本から主な仕入れを行う予定はないため、政府間の別個の取決めは必須ではない旨保証したと報じている。

6月12日

- インド統計局は、2012年4月における、鉱工業生産指数(IIP)の速報値を発表。2012年4月のIIPは、前年同月比0.1%成長、昨年度(2011年4月~2012年3月)は、前年同期比2.8%成長。

メモ:

上記発表をうけ現地紙は、4月の鉱工業生産はほぼゼロ成長であり、投資の減速を再確認するものとなった、同数値が公表された12日には、インド準備銀行が近々、政策金利を引き下げるのではないかと期待の下、株価は195ポイントも急騰した旨報道。

6月14日

- インド商工省は、2012年5月の貿易額(暫定値)は、輸出が前年同期比4.16%減の256.8億ドル、輸入は前年同期比7.36%減の419億ドルで、貿易赤字は163億ドルであった旨発表。

メモ:

上記発表に対し、インド貿易機構チャコ課長は、「今日の状況は、地球規模で景気後退のあった2008年ほど悪くはない、本年度の貿易政策により、底辺にいた輸出業者の業績は改善するだろう」と、楽観的見通しを述べた(ビジネス・スタンダード紙)。また、ラオ商務次官は、本年度の輸出を、前年比20%増加させるとの野心的目標を達成するため、戦略を再調整しており、欧州圏等、インドにとっての伝統的市場が、インドの輸出に悪影響を与えているため、ASEAN、アフリカ、ラテン・アメリカ等の代替市場に目をむけねばならない旨述べた。(ヒन्दウー紙)

6月18日

- インド準備銀行(RBI)は、四半期中間金融政策レビューを発出し、政策決定会合において、政策金利を8%に、預金準備率を4.75%に据え置くことを決定した旨発表。

メモ:

ビジネス・ライン紙は、今回のRBIの金利据え置き決定に対し、シャルマ商工大臣が「落胆した。明らかに金利を引き下げるべき状況である。インフレは主要な製造業では起きておらず、むしろ過去8ヶ月で7%から5%に減少している。インフレは食品部門で発生している」と述べた他、主要3大商工会議所関係者は、いずれも落胆したコメントをしている旨報道。他方、HSBC銀行のチーフ・エコノミストは、RBIは市場を驚かせはしたが、その判断は正しい旨のコメント。

6月26日

- インド政府は、全国光ファイバー・ネットワーク(NOFN)の構築を通じた、電子政府の推進に向け、調整委員会を設置することを発表。

メモ:

NOFNの構築は、この事業のために設立された、インド・ブロードバンド・ネットワーク株式会社(BBNL)により実施されており、50万kmの光ファイバーを敷設する予定の由。

Ⅲ. 外交

6月6日

- パネッタ米国防長官がデリーを訪問し、アントニー国防大臣や、メノン国家安全保障顧問と会談した他、シン首相を表敬。

メモ:

インド国防省によれば、米印防衛相会談で、アントニー国防相より、インドとしては防衛装備品の売買のみの関係を超え、技術移転や国産技術を得るための協力に、優先的に取り組んでいく旨強調し、パネッタ長官は、米国政府が、技術へのアクセス・共有のための施策を開始することをインド側に約束した由。

6月12日

- インド外務省は、11日～12日にかけて、パキスタンのラワルピンディで、友好的な雰囲気のもと、シアチェン氷河に関する印パ国防次官協議が、実施された旨発表。

6月13日

- インド外務省は、訪米中のクリシュナ外相がクリントン國務長官との間で、第3回印米戦略対話を実施し、共同声明を発出した旨発表。

メモ:

共同声明での特筆すべき事項は以下のとおり(イランに関しては、6月11日の米国国防授權法に基づく制裁の対インド適用除外決定を含め、共同声明には言及がなされていない)。
①クリシュナ外相は、米国が、環インド洋地域連合(IOR-ARC)の対話パートナーとなることに関心を有していることを歓迎し、現議長国として、他の加盟国に働きかけを行う旨発言。
②ウエスティング・ハウス(WH)社とインド原子力公社(NPCIL)が、グジャラートにおけるWH社製原子炉の新規建設に関する、初期事業協定を交渉していくことを約束するMOUへの署名や、GE-日立とNPCIL間のMOUに係る進展等、民生用原子力協力の完全な実施に向けた進展を歓迎。

6月21日

- インド外務省は、国連持続可能な開発会議(リオ+20)の機会に、シン首相と温家宝首相が会談した旨発表。

メモ:

シン首相と温家宝首相との会談は、今回で13回目。会談では、温首相から、インドが大規模な貿易赤字を抱えているという事実、インドと共に取り組む旨述べた他、シン首相からは、越境河川の問題を提起し、中国が情報提供のためのメカニズム設置に合意したことを賞賛した由。

6月25日

- ドイツ外務省は、ヴェスターヴェレ外相がバンガロールを訪問し、22日に同州出身のクリシュナ外相と会談をおこなった旨発表。

6月28日

- インド工業連盟(CII)は、アフガニスタンに関する東京会合の平行イベントとして、アフガニスタンの民間投資促進イベントをデリーで開催。

IV. 日印関係

6月9日

- インド海軍艦艇4隻と海上自衛隊の護衛艦2隻及び航空機2機が、相模湾で、戦術運動訓練や捜索・救難訓練等を内容とする、初の二国間共同訓練を実施。(写真提供: 在京インド大使館)



〈左: 海上自衛隊横須賀基地に停泊中のインド海軍艦艇 右: 相模湾での演習風景〉

写真提供: 在京インド大使館

6月26日

- ヒンドゥスタン・タイムズ紙は、プラダーン・ジャールカンド州観光大臣が訪日し、東京で開催された見本市M-tech(エム・テック)インド展示会に出席した他、松山日本政府観光局理事長と面談した旨報道。

今月の注目点: 大統領選挙

インドでは、大統領には実質的な権限はあまりなく、象徴的な性格が強いが、今回の大統領候補選出に至る過程では、各党の様々な思惑が現れていた。6月13日に、バナジー西ベンガル州首相は、ソニア・ガンディー・ कांग्रेस党党首と会談し、同会談後、プレスに対し「ガンディー総裁は自分に対し कांग्रेस党としての第1候補はムカジー財務相であり、第2候補はアンサリ副大統領候補である」旨述べた。その後、同日、バナジー州首相はヤダブ社会主義党(SP)党首と会談したが、会談後の共同での記者会見で、ヤダブ党首が、SPとしての大統領候補の希望は、第1候補がカラム前大統領、第2候補がシン首相である旨述べた。これは、 कांग्रेस党に対する揺さぶりともいわれる。特に、閣外協力政党であるSPから大統領候補としてシン首相の名前が言及されたことは、SPによるシン首相への不信任(注: 儀礼的な大統領への棚上げ)ともとれる行為であり、その後の大統領候補者選定の行方が注目された。最終的には、6月15日に開催された与党連合UPAへの参加各党の代表者による会議(全インド草の根会議派は欠席)で、UPAとしてムカジー財務相の大統領立候補支持を決定し、同日、閣外協力政党であるSPや大衆社会党(BSP)も、ムカジー財務相の立候補支持を表明する結果となった。

4. イベント紹介 Japan-India Events

＝◇ 最近のイベント ◇＝

◆「日印国交樹立 60 周年を祝して～日印関係の回顧と展望、そして提言」

－ 元大使達によるユニークな日印国交樹立 60 周年記念シンポジウム －

先7月2日(月)午後、日印両国の元大使3名を講師に迎え、日印国交60年を振り返るとともに、今後の日印関係の更なる発展を祈念するシンポジウムが、一般財団法人 経済広報センターと当協会との共催にて、経団連会館 2階経団連ホールにて開催致しました。同時に、同会場にて、日印交流100年を振り返る写真展(今年1月にニューデリー及びチェンナイにて開催した写真展の中から39枚の写真を選択して)も開催致しました。

パネリストとして、平林 博(当協会理事長)、アフターブ・セット(日印パートナーシップ・フォーラム理事長)、榎 泰邦(榎インド総合研究所代表)3名の元大使と、司会役兼パネリストとして比良竜虎(在日印度商工会議所理事長)の4氏が登壇しました。(表紙写真をご参照下さい)



先ず比良竜虎氏から、「インドの“三猿”とどう付き合うか～文化と国民性をどう超越するか～」の表題で、スピーチがありました。三猿とは、インドの神々です。「母親は第一の神、父親は第二の神、教師は第三の神」です。そして「悪を見ない善を見る、悪を聞かない善を聞く、悪を語らない善を語る」との教え哲学から始まり、日本文化の源流であるインドとの共通点や、日印のビジネス手法の違い、日本人の知らないインド人の特性に触れたうえで(過剰評価は禁物)、日本に期待されるのは、日本の「中流階級の社会」の構築過程の経験と「国の核となる教育(学校教育)だけでなく、社会・インフラ作り、法整備の指導、技術・品質管理など」をインドに授けることだと結んでいます。インド人として生まれ、帰化後は長く日本の生活に根ざし成功を果たした比良氏ならではの自信あふれたスピーチでした。



平林理事長からは、「インド理解の五大基本」として、①国の大きさ ②多様性の中の統一 ③世界最大の民主主義 ④伝統的な親日感情・戦略的 ⑤地理学的な重要性、を挙げられました。ついで「日本にとってのインドの重要性」を5点にまとめられ、さらに「日印の歴史的絆」「日印関係60年の軌跡」の説明があり、「日印間の五大重要課題」を提起されました。五大重要懸案は、デリー・ムンバイ間の産業大動脈と貨物新線の建設、南インドの高速鉄道等のコネクティビティー(連結性)の向上、原子力協定締結、社会保障協定締結、安保理改革等の国際問題での協力です。そして最後に、「インドで成功するための5か条」を非常に明快に提言されました。さらに日印協会の宣伝もして戴きました。



次に、アフターブ・セット氏は、約50年前に初めて来日してからの個人的経験や、駐日インド大使としての経験を回顧されました。最も日印関係が厳しい時代を大使として経験し、日印における初めての安全保障会議の開設、皇室における日印交流の貢献など、流暢な日本語で語って戴きました。そして、これからの日印関係においては、教育・学術交流の促進を提言されました。この点については、両国間で基本的合意があるので、これを具体的活動によって促進し実現する必要性を強調されました。



榎泰邦氏には、これまでのプレゼンターによる「回顧と展望」の上にとあって、主として「提言」を語って戴きました。現況としては、二国間関係における政治と経済の「メリーゴーランド」は、政治主導で来たが、今後は経済主導であるとしたうえで、今後重要性を増すのは日印のアジア地域での協力があると述べられました。つまり(1)中国プレゼンスの拡大(特に海洋・領土主権への主張の増大)があり、(2)発展する東アジア経済地域協力が重要と述べられました。具体的には未だ本格化していないが、重要性が増加することは間違いない由でした。安保理改革、PKO、核不拡散分野などの国際的課題において日印が協力すべきことを提言されました。

各パネリストは重複をできるだけ避けるように工夫され、非常に友好的かつ効果的な発信でした。前半のプレゼンテーションでは熱のこもったスピーチを行い、後半の質疑応答では時間不足を感じるほどでした。170名近い方が聴講され、本シンポジウムについて、高い評価を頂きました。

会場内に展示した日印関係を回顧する40枚弱の写真も、参加者にとっては、視覚に訴える日印関係の回顧であり、印象深いものがあったと思います。



最後に、このシンポジウムの成功は経済広報センターの御努力によるところが大きく、この紙面を借りて御礼申し上げます。

〈人物写真提供：佐伯健三氏〉

◆第30回 様々なインド『変貌するインドの民衆文化』鈴木正崇先生

昨6月29日(金)午後6時より、“インドを語る集い<様々なインド>第30回”の記念すべき講演を、鈴木正崇先生(慶應義塾大学文学部教授、日印協会会員)をお招きし協会事務所で行いました。先生のインドとの出会いは1971年(昭和46年)とのこと、「横浜を出て、ロシア経由でアフガニスタンのカーブルからヒッピー・バスに乗り、1週間ほどかけてニューデリーのコンノート・プレイスに到着した時のことを、今もよく思い出します」とのご紹介から始まり「その後、放浪の旅は調査や研究へと変化しましたが、今も毎年のように訪れています。想い出深い土地のうち、ミティラー(ビハール州)、マラバール(ケーララ州)、トゥルナードゥ(カルナータカ州)の写真をお見せしながら、変貌するインドの民衆文化の様相を考えてみたいと思います」と話して戴きました。写真を見ながら思いつきや解説を加えて戴き、あっという間に1時間30分が過ぎ、予定していたナガランド州までたどり着きませんでした。詳しくはレジメを戴いておりますので、協会へご照会下さい。30人弱のご参加戴いた中には、写真家の沖 守弘氏(インド写真の大家、87歳)、保坂俊司先生(中央大学大学院教授)とゼミ生他、現役学生数人が参加し講演後の懇親会も大いに盛り上がりました。今回たどり着けなかった地域については次回第2部として開催することを了解戴きました。(固有名詞表記は、現地語発音に準じました)



＝◇ 今後のイベント ◇＝

◆第33回インド衣料品展&第23回インド家庭用品展

インド貿易振興局(インド商工省直轄機関)が、今年も衣料品展&家庭用品展を開催します。

期 間: 2012年7月25日(水)～27日(金) 9:30～17:30

会 場: マイドームおおさか3F 大阪市中央区本町橋2-5

入 場: 無料 http://npo-jiipa.org/mailform_igf.html よりお申込み下さい。

主 催: インド貿易振興局

問合先: 特定非営利活動法人日本インド国際産業振興協会(NPO) 東京都港区東新橋2-9-4 ビアパルコビル

☎ 03-5733-5068 FAX 03-5733-5047 E-mail info@npo-jiipa.org

◆インドフェア

日印国交樹立60周年を念頭に、日印親善による経済&文化交流、インド文化への理解と体験の場を、3都市で展開します。インド音楽コンサート、インド伝統舞踊鑑賞、インド文化紹介、インド料理飲食などのブースを設置し、日印協会所蔵写真の展示も行います(入場無料)。知立・浜松ではビジネスセミナーを開催予定です。

日 時	会 場	
7/29(日)～7/31(火) 11:00～	浜松(ホテルクラウンパレス浜松)	静岡県浜松市中区板屋町110-17
8/17(金)～8/19(日) 11:45～	名古屋(名古屋クレストンホテル)	愛知県名古屋市中区栄3-29-1
8/26(日)～8/28(火) 11:00～	知立(ホテルクラウンパレス知立)	愛知県知立市中町中128

主 催: インド大使館・在日印度商工会議所(社団法人横浜インド商協会)

問合先: 日印国交樹立60周年記念行事事務局 神奈川県横浜市中区山下町24-2-306

☎ 045-662-1905 FAX 045-263-8109 E-mail jic@iccj.jp



◆インド料理フェア by Taj Hotels Resorts & Palace

今年で4回目を迎えるタージホテルのシェフを招いての、ホテルオークラ東京でのインド料理フェアです。期間中、セットメニューをご注文された協会会員には、申し出によりワンドリンクサービスがあります。

会 期: 2012年8月1日(水)～8月8日(水) ランチ 11:00～14:30 / デイナー 17:30～21:30

会 場: ホテルオークラ東京 別館1階「ダイニングカフェ カメリア」

東京都港区虎ノ門2-10-4 ☎ 03-3582-0111

◆東インド古典舞踊 オリッシーダンス公演「ラフール・アチャリア “MOKSHA”」

インドを代表する世界的若手舞踊家、ラフール・アチャリア氏をお招きして、開催します。



日時(2012年)	会場	料金	問合先・申込先
8月1日(水) 18:00～	山形公演 東北芸術工科大学 水上能楽堂「伝統館」	一般 1,000円 他大学生 500円 高校生以下・自校生職員 無料	東北芸術工科大学 東方文化研究センター ☎ 023-627-2168

8月4日(土) 18:30～	大阪公演 クレオ大阪北 大阪市東淀川区東淡路1-4-21	前売 3,000円/当日 3,500円 学生 前売 2,000円 当日 2,500円	Padmini Kulam 090-8481-9156(村上)
8月25日(土) 18:30～	新潟公演 りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 能楽堂 新潟市中央区一番堀通町3-2	前売 2,000円 当日 2,500円	でいがでいなエチゴ 090-2213-7181(西川)
9月6日(木) 19:00～	東京公演 渋谷区文化総合センター大和田 伝承ホール 渋谷区桜丘町23-21	前売 3,000円/当日 3,500円 学生 前売 2,000円 当日 2,500円	マルメロ 03-5627-7583
9月17日(月) 14:00～	福岡公演 福岡市男女共同参画推進センター・ アミカス 福岡市南区高宮3丁目3-1	前売 2,500円/当日 3,000円 小中高生 前売 1,000円 当日 1,500円 未就学児童・入場不可	スタジオ・マー (サキーナ) 090-8402-6722

協会会員には、料金が割引になる特典があります。

問合先: マルメロ(斎藤 朋) 東京都江戸川区平井2-15-7-503

☎ 03-5627-7583 / 090-2435-1654 FAX 03-5627-7584 E-mail saitemo55@gmail.com

◆南インド古典舞踊バラタナティヤム「カンチプラム・スタイル」を知る

バラタナティヤムの中でも、音楽とダンサーの動きの調和が絶妙で、感情表現が豊かな「カンチプラム・スタイル」の魅力を紹介する体験ワークショップ、セミナーとダンスパフォーマンスのイベントです。

日時: 2012年8月19日(日)、25日(土) 14:15開演

会場: シルクロード舞踏館 神奈川県横浜市中区下町80 チャイハネ ネネB1

チケット: 前売 2,000円 / 当日 2,500円 / 中学生以下無料

主催: 横浜ムンバイ友好委員会

共催: インド舞踊研究所ナーティヤ・マンジャリ・ジャパン NMJ ☎/FAX 045-681-4517

E-mail emi_mayuri@yahoo.co.jp URL <http://www.geocities.jp/gameradevi7/>

予約・問合先: 共催に同じ

◆南インド ケララの舞踊 神々の楽園

ケララナタナムは古典舞踊の中でも比較的新しい男性的な踊りです。そのケララナタナムを2011年12月に外国人で初めて修練し発表した丸橋広実の踊りを日本初公開!

日時: 9月8日(土) 18:30開演

会場: 座 高円寺2 東京都杉並区高円寺北2-1-2 B2

料金: 前売り 4,000円 / 当日 4,500円(全席指定) / 日印協会会員は前売りが3500円になります。

主催: ケララ企画 / アパルナサークル

☎ 080-3013-0924 FAX 042-574-8217 E-mail keralakikaku@gmail.com / mohini@nifty.com

URL <http://www.mohini-jp.info/event.html>



◆ビジネスパーソンのための現代インド講座 ～インドをよく知る7日間～

インドで仕事をするなら必ずおさえておくべきポイントを紹介しながら、政治、経済、社会、文化など、より大きな視点でスピーディーに変化する現代インドをとらえる為のセミナーを開催します。

期 間: 2012年9月～10月(全7回) 講義、質疑応答 19:00～20:30 / 懇親会 20:30～21:00

第1回 9月5日(水)「世界の中のインドと日印関係」 榊原 英資

第2回 9月12日(水)「インド・ビジネスは—Acting is believingで!」 島田 卓

第3回 9月19日(水)「『インド式』民主主義のおもしろさ～代表・対立・交渉・合意」 竹中 千春

第4回 9月27日(木)「現代インドの社会問題」 藤井 毅

第5回 10月4日(木)「インド経済: その強みと今後を探る」 小島 眞

第6回 10月10日(水)「文化の差から探るインド式ビジネス(仮)」 ジャグモハン・チャンドラニ

第7回 10月18日(木)「インドの可能性」 堀本 武功

参加費: 全7回一括申し込み 一般 15,000円 / 優待 10,000円

1講座ごと申し込み 一般 3,000円 / 優待 2,000円

(優待対象-国際文化会館、日本経済研究センター、日印協 法人・個人会員)

定員：100名（インド進出中・進出予定、またはインドとの取引がある、企業の方を歓迎します）
 会場：国際文化会館 講堂 東京都港区六本木 5-11-16
 申込：申込フォームを <http://www.i-house.or.jp/ProgramActivities/japan-india/seminar.htm> からダウンロードし、必要事項をご記入の上 FAX または E-mail で下記へお送りください。
 国際文化会館 企画部 FAX 03-3470-3170 / E-mail program@i-house.or.jp
 主催：公益財団法人 国際文化会館 ☎ 03-3470-3211

◆ハローギフ・ハローワールド 2012

岐阜県内の国際交流団体の活動と各国文化をパフォーマンスやブースで紹介するイベントです。岐阜日印協会が、インドの舞踊・音楽・食文化等を、岐阜県民の皆様に紹介します。

日時：2012年9月9日(日) 10:00～16:00
 会場：CINEX HALL 岐阜県府岐阜市日ノ出町 2-20
 入場：無料
 主催：岐阜国際交流団体協議会 公益財団法人岐阜国際交流センター
 問合先：岐阜県国際交流団体協議会事務局
 岐阜県岐阜市柳ヶ瀬通 1-12 中日ビル 2 階 岐阜国際交流センター内 ☎058-214-7703

◆ナマステ・インディア 2012

恒例のナマステ・インディア 2012 の季節がやってきます。今年も、日印協会は渋谷のたばこと塩の博物館と共催で、講演会を開催致します。皆様お誘い合わせの上、ご参加下さい。詳細は次号でご案内致します。

講演予定日	13:15～14:45	15:00～16:30
9月22日(土)	平林 博 「めくるめくインド-その世界遺産」	保坂 俊司 「シク教とターバン」
9月23日(日)	井上 貴子 「南インドの音楽と舞踊」	松岡 環 「最近のインド映画事情」

5. 新刊書紹介 Book Review

§ 『図書・図書館史<現代図書館情報学シリーズ 11>』



編集：佃 一可(つくだ かずよし)
 発行：樹村房
 定価：2,000 円+税
 ISBN 978-4-88367-205-9
 図書館学用テキストでもありますが、仏教と図書館の意外な関係に瞠目します。当協会の山田真美理事が一部執筆されています。

§ 『2012 アジア動向年報』



編集：アジア経済研究所
 発行：アジア経済研究所
 定価：6,300 円+税
 ISBN 978-4-258-01012-7
 アジア諸国を国別に分析した年報。的確な分析には定評があります。インドについては、近藤則夫・井上武氏による執筆です。

6. 日印貿易概況(2012年第1四半期-前年との比較) Trade statistics between Japan & India (January-March)

(単位：100万円)

輸 出 総 額 (日本 → インド)	2011年1~3月 第1・四半期	2012年1~3月 第1・四半期	輸 入 総 額 (インド → 日本)	2011年1~3月 第1・四半期	2012年1~3月 第1・四半期
	219,461	221,469		133,765	144,754
食 料 品	93	105	食 料 品	24,524	23,424
原 料 品	3,180	4,053	魚介類	4,927	6,515
鉱 物 性 燃 料	4,376	10,900	(えび)	3,453	4,422
化 学 製 品	19,368	19,171	肉 類	0	-
有機化合物	6,869	5,986	穀物類	104	69
医薬品	606	399	野菜	31	65
プラスチック	5,579	6,838	果実	957	1,266
原 料 別 製 品	46,852	43,611	原 料 品	24,717	19,692
鉄鋼	30,355	23,523	木材	41	12
非鉄金属	1,667	1,986	非鉄金属鉱	2,599	3,114
金属製品	7,453	10,117	鉄鉱石	17,550	10,275
織物用糸・繊維製品	1,827	2,040	大豆	0	-
非金属鉱物製品	1,720	1,972	鉱 物 性 燃 料	35,433	49,168
ゴム製品	2,993	3,431	原油及び粗油	0	-
紙類・紙製品	821	535	石油製品	35,433	49,167
一 般 機 械	75,727	76,752	(ナフサ等)	35,417	49,161
原動機	15,746	16,486	石炭	0	-
電算機類(含周辺機器)	450	469	化 学 製 品	11,493	13,623
電算機類の部分品	490	860	有機化合物	6,929	7,585
金属加工機械	12,159	15,844	医薬品	646	2,214
ポンプ・遠心分離器	11,568	10,536	原 料 別 製 品	19,776	18,943
建設用・鉱山用機械	2,067	2,908	鉄鋼原料製品	6,241	4,253
荷役機械	4,877	3,232	非鉄金属	549	161
加熱用・冷却用機器	2,236	2,144	金属製品	636	588
繊維機械	7,054	5,057	織物用糸・繊維製品	4,208	3,866
ベアリング	1,861	1,840	ダイヤモンド加工品	7,205	8,910
電 気 機 器	34,721	36,610	貴石及び半貴石加工品	184	316
半導体等電子部品	4,052	2,591	その他非金属鉱物製品	1,024	334
(I C)	2,102	1,360	木製品等(除家具)	7,594	32
映像機器	256	1,753	一 般 機 械	2,843	2,784
(映像記録・再生機器)	190	1,707	原動機	572	465
(テレビ受像機)	66	46	電算機類(含周辺機器)	25	22
音響機器	46	26	電算機類の部分品	142	172
音響・映像機器の部分品	82	129	電 気 機 器	2,699	2,561
重電機器	7,420	7,566	半導体等電子部品	213	110
通信機	987	454	(I C)	32	22
電気計測機器	6,070	8,376	音響映像機器(含部品)	6	6
電気回路等の機器	7,591	8,458	(映像記録・再生機器)	0	-
電池	142	116	重電機器	320	289
輸 送 用 機 器	17,693	16,439	通信機	396	321
自動車	3,097	670	電気計測機器	218	188
(乗用車)	2,989	553	輸送用機器	1,029	1,513
(バス・トラック)	108	112	自動車	146	107
自動車の部分品	13,434	14,387	自動車の部分品	848	1,065
二輪自動車	63	66	航空機類	1	1
船舶	-	0	そ の 他	11,219	13,047
そ の 他	17,450	13,826	科学光学機器	162	422
科学光学機器	3,646	3,795	衣類・同付属品	6,999	8,534
写真用・映画用材料	1,205	747	家具	78	104
記録媒体(含記録済)	605	575	バッグ類	767	1,041

“0”は表示単位に満たないもの、“-”はデータの無いもの 資料：公益財団法人日本関税協会『外国貿易概況』『日本貿易月表』

7. 掲示板 Notice

＜次回の『月刊インド』の発送日＞

今号が7-8月合併号の為次号は9月号となり、発送日は2012年9月7日(金)を予定しております。8月の発送はございません。催事チラシの封入をお考えの方は、日程をご確認のうえ事務局までご連絡下さい。チラシを封入する際には、当該催事の協会会員に対する割引等特典の配慮をお願いしております。チラシ印刷の前にご一考下さい。

＜事務局からのお願い＞

現在、2012年度の個人会員年会費の納入をお願いしております。まだ、納入がお済でない方は、お早めの納入をお願い致します。詳しくは、同封の「個人会員年会費 納入のお願い」をご参照下さい。会員証は、ご希望の会員へのみの発行とさせていただきますので、ご入用の方は事務局までご連絡下さい。

＜編集後記＞

7月初めには、インド北東部で洪水による被害が拡大し、100人近い死者と200万人が家を失ったニュースが報じられました。一方、日本でも熊本県と大分県を中心に、「これまで経験したことのないような大雨(気象庁)」が続き、各地に大きな被害をもたらしました。

ここ数年、災害が起きると、「こんなことは初めてだ」、「何年もここに住んでいるが、こんな事は無かった」と、被害地域の方々が口にするのを聞きます。

どんなに科学が進んでも、自然の猛威は避けようがないのでしょうか。

しかし、悲惨な状況のなかでも人々が助け合う姿に、励まされることもあります。編集子も、現地で手助けすることが出来なくても、何か自分にできる、身の丈に合った援助をしようと思います。

被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。



入会随時受付中



1903年、大隈重信、澁澤榮一らによって創設された日印協会は、これまで日印の相互理解の促進を目的として、両国の友好親善に関する事業を行ってきました。今年は、日印国交樹立60周年という記念すべき年であり、これを機に両国の友好関係を更に深める為にも、協会会員の獲得は重要な課題であると考えています。

インドに興味のあるお知り合いの方がいらっしゃいましたら、是非日印協会をアピールして下さい。ご希望により、当協会の活動に関する諸資料をお送りいたします。日印協会の活動に賛同して頂ける多くの法人会員・個人会員のご入会をお待ちしております。

☆年会費：個人 6,000円/□
学生 3,000円/□
一般法人会員 100,000円/□
特別法人会員 150,000円/□

☆入会金 個人 2,000円
学生 1,000円
法人 5,000円
(一般法人、特別法人会員共に)



本誌に掲載致します投稿等は、執筆者のご見解・ご意見であり、当協会の見解を反映するものではありませんので、念のため申し添えます。

月刊インド Vol.109 No.6 (2012年7月20日発行) 発行者 平林博 編集者 青山 鑛一
発行所 公益財団法人 日印協会
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-1-14 スズコービル2階
Tel: 03-5640-7604 Fax: 03-5640-1576 E-mail: partner@japan-india.com
ホームページ: <http://www.japan-india.com/>

